



聖金曜日・主の受難(ヨハネ 18:1-19:42)

家族

主は私たちのために命をささげてくださいました。私たちが正しく、善良であったから死んでくださったのでもありません。聖パウロはローマの信徒への手紙の中でこう言っています。「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」(ローマ 5・8)

主イエスは今、十字架の上で命をささげ、亡くなられました。たしかに亡くなられた、死んだのです。けれども聖パウロは、「そのことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」と説明したのです。

こう考えました。神は愛を注がれる方、愛を示してくださる方ですが、イエスの死でさえもわたしたちに対する神の愛だとしたら、神は私たち人間に、愛のほかは示すことができないのではないのでしょうか。

神は私たちに、愛のほかは示すことができないとしたら、目にするものすべてを見直すきっかけになります。私たちは神から身体を与えられました。与えられた身体を喜ぶことができず、不平不満を漏らしているかも知れません。心臓や他の臓器に欠陥があったり、知的障害を抱えていたり、もっと違う身体を願って不満に思っているかも知れません。

けれども神が人間に愛のほか示すことができないのだとしたら、私たちが与えられた身体を受け入れる気持ちが芽生えてくるのではないのでしょうか。この身体を通して、生まれた状態を通して、神が私たちにご自分の愛を示してくださっている。もしそのように受け止めることができれば、抱えている不平不満は解消するかも知れません。

誠実に生きているのに、これでもかというような困難にぶつかり、投げやりになっている人がいるかも知れません。出会う人、向き合っている出来事、そのどれも自分にとって喜びが感じられない。そんな人がいるかも知れません。

しかし神は、私たちに愛のほか示すことができないのだと思います。御子イエスを十字架に差し出すことは、御父にとってどれほどの痛み悲しみでしょうか。それでも御父はイエスの十字架上の死によって、私たちに愛を示してくださいました。

人は言うかも知れません。「教会はなぜ、十字架にはりつけにされたイエスを聖堂の中心に据えるのですか？」あなたは答える必要があります。「イエスの十字架上の死によって、神は私たちに愛のほか示すことができないと仰っているのです。十字架のイエスは、御父が私たち人間に示された最大の愛です。」

揺らぐことなく、私たちは神が愛のほか示すことができないのだと人々に伝えましょう。神の示された愛が、私たちの人生に起こるさまざまな出来事の意味を良いものに変えてくださいます。